

2025年9月21日

「はじめてのキリスト教」説教要約

しもべと主人に見る福音

(コロサイ3・22～4・1)

一、奴隷と主人たち

新約聖書の中には「奴隷」ということが多く出てまいります。理由は、キリストの善き知らせが伝えられて行った地域において、どの場所にも奴隷がいたからです。古来、戦争が当たり前のように行われていた時代でしたから、戦いがあって、相手国に勝つと捕虜として連れて来て、奴隷としました。反対に自分たちが負ければ、相手国の捕虜になりました。南王国ユダのバビロン捕囚がそうでした。ところが古代ペルシアは、なぜかユダヤ人に対して寛大に扱いました。こうしてバビロン捕囚が終わり、マケドニアが制する時代を経て、ローマ帝国が覇権を握る時代になりました。新約聖書の舞台となったのは、古代ローマ帝国が治める時代でした。そうしますと、当時の世界の至る所に奴隷がいました。奴隷と言っても様々でして、家の財産管理を任された奴隷、家庭教師となった奴隷、書記役を務めた奴隷もいました。中には、ひどい仕打ちを受けた奴隷もいたようです。そして、奴隷の身分で主イエス・キリストを信じた奴隷たちも大勢いました。彼らは主人やその家の人たちと共に、

集会場として使われていた、比較的に大きな家の一室で、主人と共に礼拝を献げていました。奴隷にそういうことが許されたのは、主人が救われたからでしょうね。人は主イエス・キリストを信じて、信仰表明としてのバプテスマを受けることによって、新しく変えられました。いつの時代にも人は変わらないものです。ですがキリストを信じると、人は変わるのだと教えられます。

二、奴隷たちに見る福音

22節をご覧ください。〈奴隷たちよ、すべてのことについて地上の主人に従いなさい。人のご機嫌取りのような、うわべだけの仕方ではなく、主を恐れつつ、真心から従いなさい。〉とあります。奴隷の身分であって、主イエス・キリストを信じた者たちに対する勧めは、〈奴隷たちよ、すべてのことについて地上の主人に従いなさい〉であることが分かります。奴隷の身分でイエス・キリストを信じた者たちに対して、自分が置かれた境遇から解かれるようにとコロサイ書は勧めていないことが分かります。エペソ書も同じです。ペテロの手紙第一もそうです。その意味は、奴隷の身分の人はそこから解かれようと考えてはいけません、という意味ではなかったと思います。コリント人への手紙第一7章21節でパウロは、あなたが奴隷の状態で召されたのなら、そのこ

とを気にしてはいけません。しかし、もし自由の身になれるなら、その機会を用いたらよいでしょうと語っています。それから、これを私たちに当てはめるなら、自分が不幸に感じている時に、それを環境の所為^{せい}にしないこと、かと思えます。もちろん、自分を取り巻く環境が改善されたら、感謝なことですが、ですがキリストの善き知らせは、「自分を取り巻く環境が悪いから、私はこうなった」という論法を認めません。紀元一世紀の時代と今とでは、社会状況がまったく異なりますが、みことばの真理は不変です。だれでもキリストを信じるなら、神さまとの信頼関係ができあがり、その人の人生も開かれるようになります。22節後半と、23節を見てまいります。〈人のご機嫌取りのような、うわべだけの仕方ではなく、主を恐れつつ、真心から従いなさい。何をするにも、人に対してではなく、主に對してするよ

うに、心から行いなさい。〉とあります。キリストを信じた者は、イエスさまがそうであったように、世にあってしもべの姿として生きることになります。その意味は、自分はキリストのしもべであるから、しもべの姿になるということであって、本当に人のしもべ(奴隷)になるという意味ではありません。まさしく、〈何をするにも、人に対してではなく、主に對してするよ

三、主人たちに見る福音

4章1節を見てまいります。〈主人たちよ。あなたがたは、自分たちも天に主人を持つ者だと知っているのですから、奴隷に対して正義と公平を示しなさい。〉とあります。主人たちに見る福音とは何なのでしょう。それは、主イエス・キリストを信じますと、奴隷の身分の者たちも、この世での主人も、聖なる神の前に等距離である、と知ることです。それが分かるからこそ、3章11節にありますように、〈そこには、ギリシア人もユダヤ人もなく、割礼のある者もない者も、未開の人も、スキタイ人も、奴隷も自由人もありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。〉とあります。このことばを、この世での主人が聞き、納得したなら、だれもが「その通りだ」と納得します。これが、キリストの善き知らせの力であって、神のことばによる変化です。「私のほうが偉いんだ」と考え、その思いから抜け出せない人がいたとしたら、なんと不自由なことかと、私共キリストを信じる者は思います。そういう状態は、言い換えるなら「罪の奴隷」です。パウロは語りました。〈神に感謝します。あなたがたは、かつては罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規範に心から服従し、罪から解放されて、義の奴隷となりました。〉(ローマ6・17～18)と。